30000系車両

新生・西武のシンボル。スマイルトレインは女性の活躍もあり創られた

2005

再起を託した車両

西武グループは、西武鉄道の上場廃止から1年が経った2005（平成17）年12月、グループの再起をかけた新しい車両プロジェクトチームを立ちあげた。西武鉄道の各部署から集められた社員の数は男性20人にのぼる。メンバーたちは幅広く意見を聞くため、各部署からの要望を募っていた。

「女性をプロジェクトチームに加えたらどうだ」

後藤社長のひとことがこのプロジェクト全体の流れを変えることになる。11人の女性社員が同プロジェクトに参画することになり、2006（平成18）年2月、プロジェクトチームは再スタートを切ったのである。そこで目立ったのが、女性社員からの「ハッとさせられるような」意見だった。西武鉄道は現場一筋で基礎から叩きこまれた男性社員が多い社風なだけに、この意見は新鮮だった。

11人の女性

そこから議論を重ね、30000系の車両コンセプトが決まった。

「Smile Train ～人にやさしく、みんなの笑顔をつくりだす車両～」

新生西武鉄道の顔となる電車をつくるのがプロジェクトの使命である。議論はいつも白熱した。特にデザイン選定までの道のりは険しかった。多くの意見を集約しなければならないため、なかなか1本に絞り込むことができない。最終的に救ってくれたのは、やはりコンセプトのSmile Trainだった。これがメーカーとプロジェクトチームの架け橋となり、意見は統一されていった。

何度も検討会を重ね、2008（平成20）年4月に30000系車両はデビューの日を迎えることができた。丸みのある優しいデザインは既存の車両とは大きく一線を画すものとなった。

内装デザインの基本的な部分は女性を含むプロジェクトチームが担当した。座席の座り心地やつり革の使用感、車内の実際の明るさなど、数字にはなりにくいデータを集めるため、メンバーたちは繰り返し既存の車両を乗り比べた。そうした作業が多くの気付きを生み、細かな部分にまで行き届いた顧客目線の工夫として実を結んだ。

特に徹底されたのはユニバーサルデザイン化である。例えば20000系では1150mmだった床面の高さを1135mmに下げ、ホームとの段差をより小さくした。また荷棚の高さも50mmほど低くすることで、荷物の上げ下ろしを容易にできるような工夫もしている。

エコロジーへの配慮もSmile Trainの特徴だ。前面部を含めて車体は重量の軽いアルミ合金を使用することで軽量化を実現。また、多くの部分を単一の合金で統一しているため、リサイクル性も高い。

30000系車両は、いまではチームの手を離れ、一般の顧客からもSmile Trainの愛称で親しまれるまでになった。

車両コンセプトが決まり、侃侃諤諤の議論が続けられた

製造メーカー決定のためのプレゼン中、女性社員の姿が目立つ

2008（平成20）年1月、開発メンバーと初対面する30000系

スマイルトレイン ～人にやさしく、みんなの笑顔をつくりだす車両～

DATA
全長 ◎ 20 m
全幅 ◎ 2930 mm
全高 ◎ 4060 mm
車体材質 ◎ アルミ合金
営業最高速度 ◎ 105 km/h
設計最高速度 ◎ 120 km/h

つり革

オリジナルの「たまご型」をしたつり革

西武鉄道オリジナルの「たまご型」。持ち手部分の表面には抗菌処理が施されている。ユニバーサルデザインの一環として、車両の両端の荷棚部分にあるつり革と、優先席部分のつり革については、その他一般席部と比較して低い位置に設置している。

優先席

いす全体がほほえんで見える優先席

背もたれにハートをモチーフとした模様が描かれており、離れて眺めると、いす全体がほほえんでいるように見えるよう工夫している。これも内装を主に担当する女性からの意見を反映したものだ。また手すりを鮮やかなオレンジ色にすることで、遠くからでも優先席であることが容易に判断できる。さらに手すりには丸みをもたせて、座っている人も立っている人も握りやすく、立ち上がる際に力が入るような形状にしている。

透明ガラス

車内全体を明るくする効果もある貫通扉

車両と車両の間にある貫通扉には、大きな全面強化ガラスを採用した。またその左右の余白にも縦長の強化ガラスをはめ込むことにより、車両間の見通しは大きく向上した。大型ガラスの貫通扉は、車内を明るくする効果も生み出している。さらに見通しがよくなることで、犯罪防止にも一役買っている。